

uvance

FUJITSU

ESGデータドリブン経営による企業価値向上施策
サステナビリティ経営実現に
向けた富士通の取組み

富士通株式会社
杉山 南津希





杉山 南津希

クロスインダストリーソリューション本部
Sustainable Transformationグループ長

パーパス

世界中の1人1人が自分らしく生きられる
そんな未来をお客様と一緒に作りたい

家族

夫（共働き）、子供2名（小3、年中）

- 2012 ● 富士通入社 半導体事業 海外営業部
- 2013 ● エレクトロニクス営業部（複写機担当）
 - ・ 事業会社/新規開拓アプローチ
 - ※仮説提案型の活動を自ら計画・実行・実績化
- 2019 ● プロセス営業部（担当）
- 2021 ● 石油大手グループ
 - ・ 経営層/CxO向けトップアプローチの企画支援
 - ・ 事業部門/SXアプローチの戦略立案・推進
- 2022 ● 関西製造グループ（マネージャー）
 - ・ 事業部門の新規開拓、共創ビジネス創出のリード
 - ・ 経営層/CxOや事業部門アプローチの企画実行
 - ※トップアプローチの企画実行のメソッド確立
 - ※自らトップリレーション構築（1on1）
- 2023 ● 関西製造グループ（AGM）
 - ・ 製販一体組織のリード（30名、TCV20億円）
 - ※大規模製販一体組織のリーディング経験

必要性が高まるサステナビリティ経営

環境課題への取組み

欧州を中心に 規制・法令化が進む

社会からの厳しい視線 消費者の意識変化

ESG投資の本格化

サステナビリティ報告の義務化
CSRD

人権軽視とみなされた不買運動

2050年ネットゼロ宣言

サステナビリティ情報開示基準
SSBJ/ISSB

論理的消費（エシカル消費）

GX-ETS

サーキュラーエコノミーDDP

ES・CSへの影響

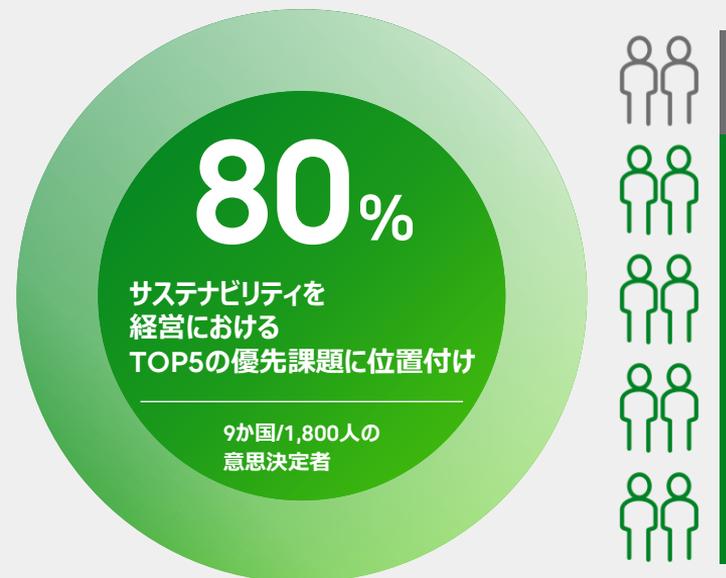
サプライチェーン全体での
脱炭素化活動

環境・人権に関して、企業に
責任ある対応を求める動きが加速

消費者も「正しさ」を求め
共感できる企業・商品を選択

サステナビリティ経営の重要性

外部環境が急速に変化・一層複雑化する中、多くの外部要因が企業の持続可能な経営に影響を及ぼすようになりました。企業にとってサステナビリティへの対応は、経営の根幹に位置づけられるようになってきました。



SX推進の緊急性は高いが、進捗は遅い

経営層の大多数が『サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）は経営の最優先事項である』としているにも関わらず、SX戦略の実行により成果を出している企業はごく僅かです。

42%

『SX戦略を立案し
実行している』

26% | 15か国/11業種のCxO600名

『具体的な成果を出している』

SX推進の課題

複雑さと膨大さ

サステナビリティへの対応は非常に複雑で、その規模も膨大です。

業務プロセス/企業文化/事業戦略の根本的な変革が求められる中、どのように組織能力を強化していくかがすべての企業に問われています。

SX：長期的な成長を維持するため、「稼ぐ力とESGを両立させる経営」への転換を目指して、継続的に施策を実行できる仕組みを構築する

富士通の社内実践における取組み

サステナビリティ・トランスフォーメーション実現へのチャレンジ

Our Purpose

わたしたちのパーパスは、
イノベーションによって社会に
信頼をもたらし、世界をより
持続可能にしていくことです。



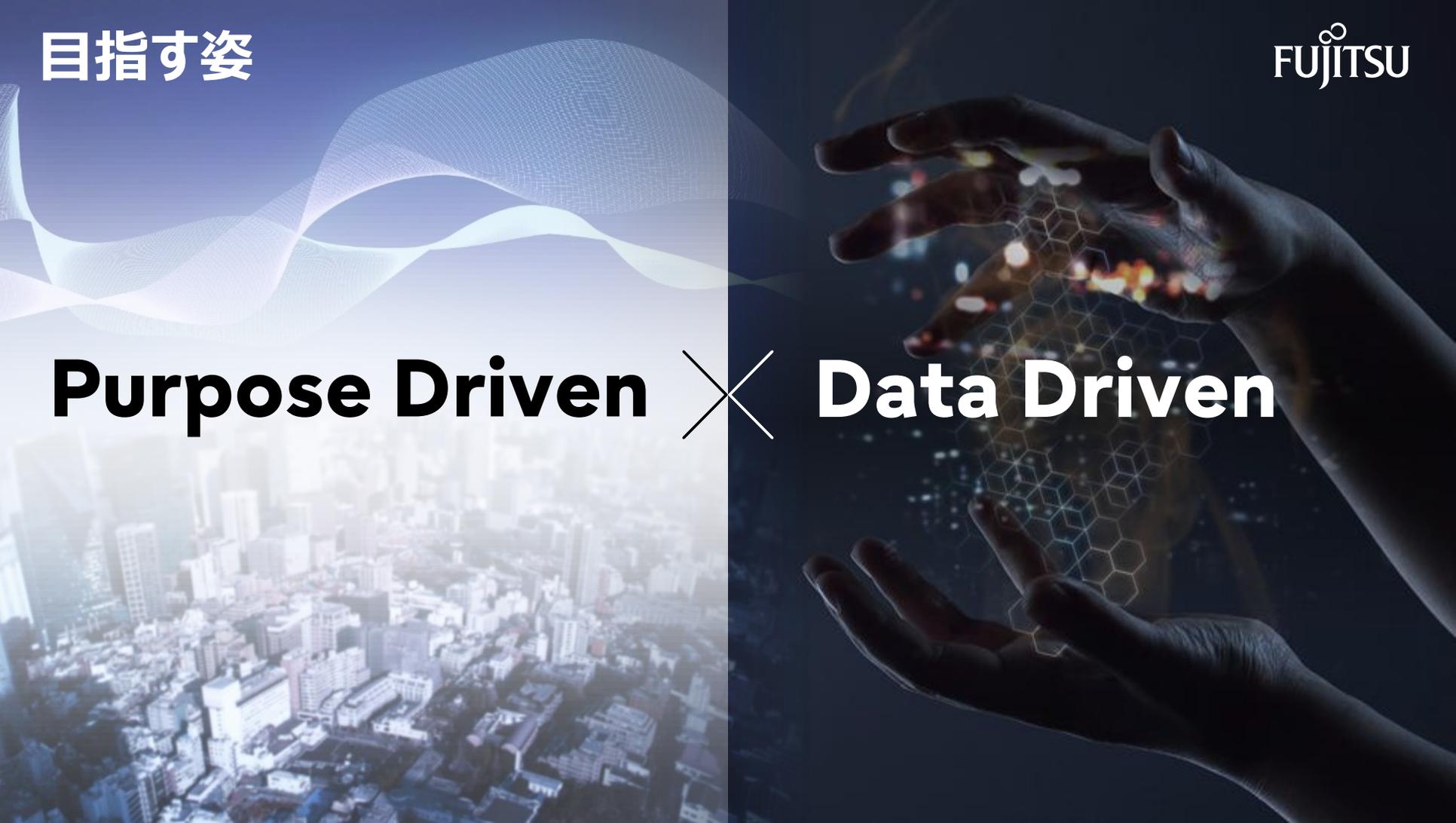
目指す姿

FUJITSU

Purpose Driven



Data Driven



富士通の目指すサステナビリティ経営

サステナビリティを事業成長の中核とすべく、2023年5月にマテリアリティを設定し富士通グループが注力する分野を明らかに

Purpose

イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくこと

富士通のマテリアリティ



中長期的な視点で持続的な成長に向けて解決すべき課題を特定

中期経営計画（2025年度目標）

財務指標

事業成長収益力

コアFCF

EPS

非財務指標

GHG排出量

NPS

生産性

従業員
エンゲージメント

ダイバーシティ
リーダーシップ



人権・多様性



ウェルビーイング



環境



コンプライアンス



サプライチェーン



コミュニティ

GRB（グローバルレスポンシブルビジネス）6課題

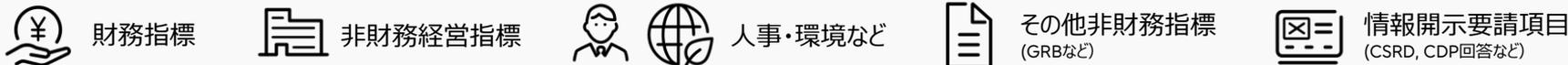
長期的で
安定した貢献



成長機会の
創出



サステナビリティ経営における富士通の取組み



One-Data

ESG Management Platform



財務非財務データ分析

- 財務と非財務指標の関係性分析の解明

経営判断への活用

経営目標設定/進捗チェック
マネジメントサイクルPDCA

財務・非財務データの
統合と可視化・分析



GHG排出量企業間連携

- SC全体GHG排出量削減努力の可能性
- 一次データ収集可視化

GHG排出量削減の努力

削減施策の意思決定

ブロックチェーンによる
トレーサビリティ確保 (GHG可視化)



ESG情報可視化/CSRD対応

- ステークホルダーとの対話・統合報告等による発信

情報開示への対応

外部とのエンゲージメント

法規制に対応した
情報開示 (CSRD等)

企業価値向上へ向けた取組みを富士通グループで実践

経験した実践知をお客様へ

サステナビリティ・トランスフォーメーションの更なる展開

富士通の目指すSX

サステナビリティ・トランスフォーメーション



富士通は、企業・社会の事業継続におけるリスクの最小化と
お客様が取り組むサステナブルな社会の実現に向けた事業創出に貢献します

企業間連携を前提とした環境の整備

複雑で大きな課題に向き合うため、当社は多くの外郭団体やイニシアティブへの参画を通し、最新動向やノウハウを蓄積、企業の枠を超えた協力体制で活動

気候変動

サプライチェーン流通のグローバル実証に参画



Scope3カテゴリ1削減を目的に、製品CFPの算出方法／データ連携方法論を作成し国際標準化を計る

気候変動

見える化WGへの参画



日本のサプライチェーン全体でのCO2排出量の見える化に向けたプラットフォームを検討

サーキュラーエコノミー

参加団体からの情報収集強化



EUサーキュラーエコノミー政策で2027年以降義務化が始まるDPP*のシステム要件やルール案を作成

*Digital Product Passport (デジタル製品パスポート)

データ基盤

エコシステム形成の意見交換



国内でSociety5.0を実現するための社会や産業構造アーキテクチャを設計

企業の持続可能な成長を実現

ESG Management Platformは、継続的な企業価値向上実現に向けて、施策実行・価値訴求・評価・改善のサイクルを One stream サービスとしてご提供

分散しているデータを統合し一元管理と可視化を実現

経営資源を増幅させるための施策案をリコmend



コンサル
サービス

経営戦略策定コンサルティングサービス・アセスメントサービス

データサイエンス・データ活用コンサルティングサービス

オフアリング
サービス

Sustainability Compliance



法規制に対する
情報開示



グリーン調達
(製品含有化学物質管理)

Sustainability Value Accelerator



トレサビプラットフォーム
(脱炭素化)



カーボンクレジット
創出活性化

Decision Making for Sustainability



GHG算出予測
シミュレーション



経営意思決定支援
(財務非財務分析)

Fujitsu
technology

需要予測 AI

トレーサビリティ

Wide Learning

最適化 AI

生成AI リコmend

生成AI レポーティング

Sustainability Value Accelerator



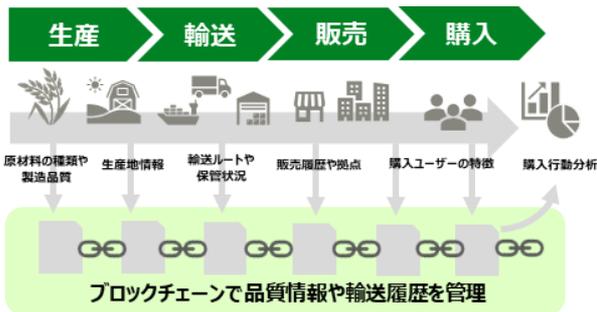
原材料・GHGの
トレーサビリティ



循環型経済



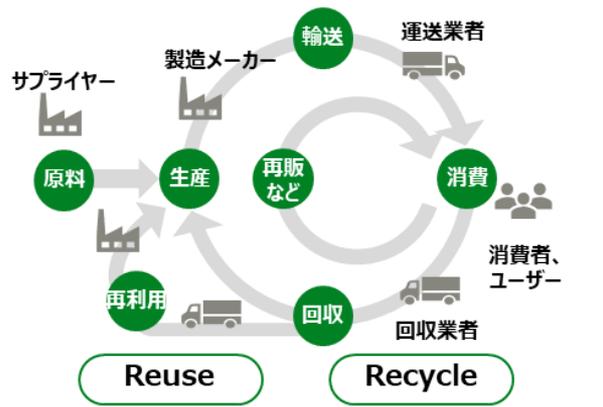
取引の
透明性・信頼性



環境情報(GHG排出量, 水使用量)を可視化、環境に配慮したものを使いたい

原材料や生産者の情報を知りたい

生産者とユーザーをデータでつなぎ
新たな顧客体験を創出する



サプライチェーン全体の資源情報共有
連携強化による資源循環の最適化



デジタルスペース上に
トラストな取引の場を提供し
業種を超えてステークホルダーをつなぐ

tex.tracer様

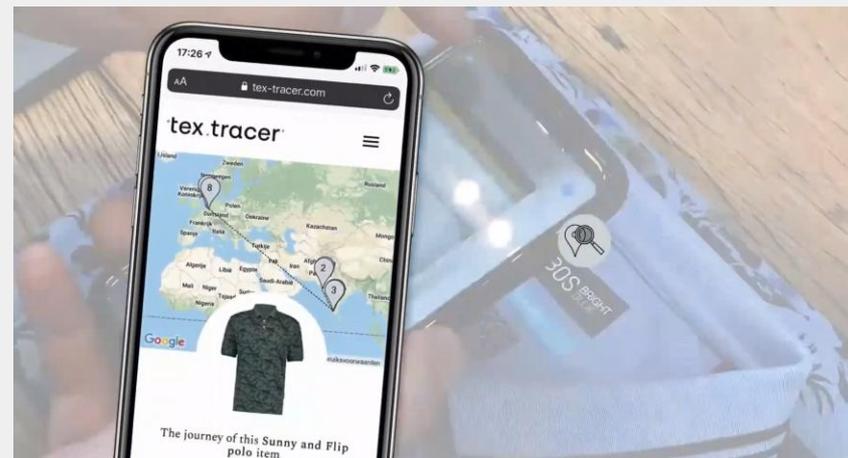
透明性がブランド価値を高め購入者が商品の素性を把握し選択可能に

Problem

- **利益だけでなく、人や地球に優しい環境の整備**
そもそもアパレル業界は競争激化・価格志向
- **不透明なアパレル業界のサプライチェーンの変革**
消費者が商品の素性を理解したうえで購入、
労働者の権利の確保等

Effect ▶ 価値向上

- **原材料生産から製造、物流、消費者までの
サプライチェーンの透明性確保**
- **フェアトレードやオーガニック生地などの証明が可能に**
- **ブランド、小売業者、サプライチェーン・パートナー、
消費者などすべてのステークホルダーが、
「データに基づいた意思決定」を可能に**



サステナビリティ経営の実現に向けて

1

組織ドリブンではなく
**会社全体・サプライチェーン
全体の利益最大化**

(多角的な意識と意思決定による
全体最適の徹底)

2

データとシミュレーションを駆使した
未来予測型への転換

(需給・リスクなど多様なリスクに
対する最適解予測の継続)

3

データを活用した
事業・ビジネスの転換

(サステナブルな社会実現に向けた
ビジネス変革を実行する)

データドリブンによる経営高度化へ向けた継続的な活動が重要

Thank you

